

最近、復興地の女性リーダーの話から、本当に深刻な問題だと感じるのは「心のケア」です。大切な人を亡くしたり、津波で家財一切を流されたりという強烈なトラウマ(心的外傷)体験から心的外傷後ストレス障害(PTSD)を発症する人が多いにもかかわらず、適切な対応はほとんどできていないのが現状です。特に仮設住宅に住む人たちは、無気力、あきらめ、つらいと言えない環境の下で負のスパイラルに陥り、孤独死や自殺者も増えています。セラピストが活動している地域もありますが、

東北復興日記

55

ど被災者を支援する人のメンタルの問題も大きくなっています。四月に宮城県気仙沼で開催した第五回車座では「心の



ケアのために結結プロジェクトに何ができるか」を議論し写真。イギリスで活躍の心理カウンセラー、溝口あゆみさんから、欧米で元兵士のPTSDやハイチ地震、ルワンダ

「もよみ」も先導的な経絡のセラピー」と認められている、この代替療法は、経絡と呼ばれるつぼを軽くたたいて刺激しながら、恐れや無力感といった感情、または意識に刷り込まれたつらい記憶の映像などを解放していく、東洋の気思想と西洋の心理セラピーを統合したテクニックです。EFTを

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。



NPO法人JKSK
結結プロジェクト
事務局長
園田綾子さん

気仙沼でセラピー研修会

セラピーを受ける場所やセラピストの不足、メンタルケアを受けることへの抵抗など課題は山積み

内戦の被災者などにも活用されているEFT(エクオレンジ)の事務所をお借りして研修会を開催します。六日は半日体験会、七・九日の三日間

親しみやすく「つぼトン」セラピー」と命名し、十一月初旬に気仙沼のNPO法人ネットワークオレンジの事務所をお借りして研修会を開催します。六日は半日体験会、七・九日の三日間は、セルフケアができるようになる研修会です。被災地の方は無料参加なので、ぜひJKSKのホームページ(<http://www.jksk.jp/j/>)からお申し込みください。